

びびぎ

No. 7

ドラム缶工業会会報

ペール缶の現状と将来への展望

1. 我が国に於けるペール缶の生い立ち

ペール缶は、アメリカで開発されヨーロッパ各国でも使用され、日本にも輸入されるようになり、我が国で作り始めたのは昭和25年～26年頃、アメリカ駐留軍の輸送容器としての発注が始まりました。

その後、経済の発展に伴い、各国から自動車用潤滑油として様々なペール缶が輸入されはじめ、堅牢で綺麗な印刷が注目を集めました。更に昭和30年代後半には労働力不足のため充填、梱包作業の省力化が要請され、また、メートル法の導入が進められていた時期でもありましたので、容量的に5ガロン(18ℓ)入りから20ℓ入りへの移行が進みました。

ペール缶は消費者に、中身の高級品イメージを与えたこ

とから、高級潤滑油の容器として、石油元売各社からの需要が急速に拡大しました。また、使用後のペール缶は多岐にわたる再利用ができるというメリットもあります。

その後、昭和41年頃からペール缶自動生産ラインが設置され、大量の生産が可能となり、現在主製品になっているスタッカータイプ(バケツタイプ)テーパペール(JIS Z 1620T型)が加わり、昭和42年5月1日にはJISが制定され、需要部門も石油以外に塗料、化学、建材のほか、ファンシー缶にも用途が広がり、需要家の要望に応じて数多く生産されるようになりました。その間、ペール缶製造メーカーとして生産の合理化、板厚の薄手化、部品の簡素化、印刷などのコストダウンに努力してまいりました。

2. ペール缶の現状

現在ペール缶専業メーカーとして全国に6社8工場(関東4工場、関西4工場)が稼動しております。生産量も第一次オイルショックの期間を除き順調に推移してまいりましたが、平成2年度をピークとして、その後3年間は残念

ながら減少を続けて今日に至っております。直近の年度別出荷推移及び需要部門別、缶種別出荷本数は、表1～3のとおりであります。

また、危険物容器として消防法、船舶安全法の問題に対

(万本) 表1 ペール缶・年度別出荷推移図(昭和51～平成4年度)

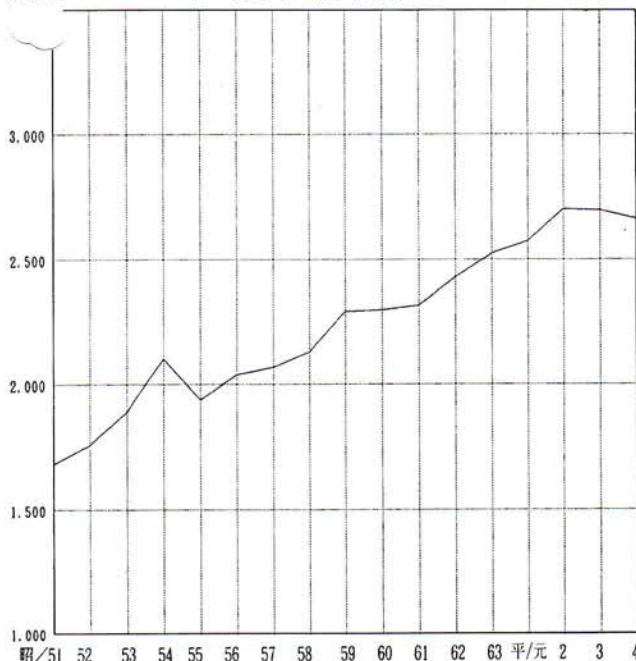


表2 平成4年度ペール缶需要部門別出荷缶数

単位:千本

用途	関東	関西	計	%
石油	7,082	6,463	13,545	50.9
化学	6,005	4,589	10,594	39.8
塗料	393	1,235	1,628	6.1
その他	355	500	855	3.2
合計	13,835	12,787	26,622	100

表3 平成4年度ペール缶缶種別出荷缶数

単位:千本

缶種	関東	関西	計	%
ラグ	10,034	8,910	18,944	71.2
バンド	2,083	2,613	4,696	17.6
天地巻締	1,719	1,263	2,982	11.2
合計	13,836	12,786	26,622	100

応すべく製品の品質向上を図り、需要家の皆様方の要望にお応えしてまいりました。

ペール缶の種類は、主に表4のように分けられますが、このほか危険物用容器としてのペール缶には、表5のようなものがあります。

ペール缶メーカー各社は、容器性能確認試験を受け合格しております。平成6年には、鋼製ペールJIS Z 1620が一部改正となります。これは危険物関連の(1)船舶安全法(2)消防法(3)毒物及び劇物取締法(4)航空法等を取り入れたものです。

表5 危険物収納用ペール缶

	検査機関	主務官庁	適用缶種	マーク表示方法
UN	日本舶用品 検定協会 (H. K.)	運輸省	天板固定式 液体用 天板取外し式 固体用 (海上輸送用)	1A1/Y 1.4/100/90 J/ABC (国連マーク) 缶種/危険等級 比重/内圧/製造年 表示方法 天板印刷 (天板固定式) " 胴部印刷 (天板取外し式)
KHK	危険物保安 技術協会 (K. H. K.)	自治省 消防庁	天板取外し式 液体用	L-Y 1.3-N K H K ○○○ 表示方法 胴部印刷 液体-危険等級 比重-内圧試験未実施 KHK略号 KHK確認試験工場番号
JSDA	ドラム缶工業会 (自主検査)	ドラム缶 工業会	天板固定式 液体用 天板取外し式 固体用	L-Y J S D A A. B. C 表示方法 胴部印刷 液体-危険等級 ドラム缶工業会略号 工業会登録工場略号

その他厚生省管轄として劇毒物取締法があります。

3. ペール缶の特徴

- ・丈夫である。形状的に堅牢にできているので輸送、貯蔵が安全である。
- ・綺麗な印刷ができる。中身商品のイメージアップが図れる。
- ・充填が容易。天板が取り外せるので短時間で充填ができる。なお、その時中身の確認が可能である。
- ・蓋絞めのみで梱包終了。段ボールや木箱などの外装が不要である。
- ・空缶時の輸送及び在庫の効率化。在庫ストックをする際、スタッカー形状の為スペースが狭くて済む。
- ・使用後空缶の再利用。天板が取り外せるので利用範囲が広い。バケツ、植木鉢、物入れ、屑入れとして便利に使われている。

表4 ペール缶の形式、種類、号別及び級別

形式	呼称	胴体の形状
T型	テーパペール	胴体にテーパをつけたもの
S型	ストレートペール	胴体がストレートなもの

号別	呼び容量(ℓ)	容量(ℓ)
1号	18ℓ	18.6ℓ以上
2号	20ℓ	20.6ℓ以上

級別	鋼板の呼び厚さ
H級	0.6mm
M級	0.5mm
L級	0.4mm
F級	0.34mm

種類	呼称
1種	天板取外し式 ラグタイプ
2種	天板取外し式 バンドタイプ
3種	天板固着式 天地巻締めタイプ

☆この他に、複合容器、2液タイプ用等も製造しております。

4. 将来への展望

今後、ペール缶につきましても地球環境上、中身の法規制等によってペール缶の仕様の変更が考えられますが、我々も研究を重ねユーザーのニーズにお応えし安定供給に努力致します。

なお、今後我々ペール缶メーカーとしては供給だけでなく、都市ゴミの軽量化対策、資源のリサイクルなど

自然環境に配慮し、容器のクリーン化にも心がけていくべきだと考えます。

今後共、需要家、鉄鋼メーカー等皆様のご協力をいただき、種々問題の解決を図りたいと思います。



DATA FILE

化学・石油向け需要の回復ならずなお続く低迷

平成5年度第2・四半期（7～9月期）のドラム缶生産は、前年同期比8.2%減の7万9千トン、出荷も同比8.2%減の7万8千797トンとなり、生産・出荷とも前年同期を大幅に下回った。

このうち、主力の200ℓ缶の出荷本数は、前年同期比7.1%減の2,793千本で、うち、間接輸出が339千本、同比13.4%減となった。主需要部門の化学業界は、石油化学製品が不振で、円高による輸出減少も加速し、前期に引続いて、石油向けも需要が回復せず、ドラムの需要は低迷を続けている。

一方、ペール缶の出荷本数は、前年同期比10.9%減の5,898千本で、用途別の構成比は、石油向49.3%、化学向41.4%、塗料向6.4%、その他2.9%となっている。

この出荷を、缶種別・用途別にみると表-1に示す通りである。

平成5年（7～9月度）ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

用途		単位：千本					合計	前年同期比
缶種		石油	化学	塗料	食料品	その他		
200 Q 缶		464	2,063	161	57	48	2,793	92.9
ペール		2,909	2,444	375		170	5,898	89.1
100 Q 缶		4	42	微			46	121.1
50 Q 缶			51	微			51	113.3
20 Q 缶		1	7				8	—
アス缶型		3	3				6	75.0
その他容量缶		1	202			1	204	96.2
垂鉄板鉛缶	200 Q		28	2	微	2	32	62.7
	その他		56	微			56	82.4
	小計		84	2	微	2	88	73.9
ステン缶	200 Q		3	2			5	71.4
	その他		5				5	250.0
	小計		8	2			10	111.1
合計		3,382	4,904	540	57	221	9,104	89.7
構成比		19.7	70.8	5.8	1.7	2.0	100	—

(注) 構成比はドラム缶の出荷トン数の構成比。

COLUMNS

▼先月、東北の三沢から十和田・奥入瀬を見て八戸へ行った。八戸の八食センターという大市場には水産物や青果が、東京とは大違いの安価で売られていた。しかしコメは置いてない。

▼そこへ行くまでの沿道の水田で都会の中学生が体験稲作の実習で刈田の後片付けを

していた。今年は穂の捻りが悪く収穫は三割以下という。冷夏長雨でシヤンと育たなかった稲ワラは畳床にもならないヤワなものだそう。コンバインで細断して燃やし肥料とする以外使い道が無いという。

▼米作農民が、今冬都会に出稼ぎに来ても地下鉄工事は少なく、ゼネコン汚職の影響を……

で仕事を棚上げされ、はたまた工場でも三年続きの不況で受け入れる余地が無い。数十年前にタイムスリップした落葉後の東北を垣間見てきた。

▼さきの中学生は体験実習で何を実感したのだろう。景気対策の早急の実効ある実行を……



エノモト工業株式会社

当社は、大正6年(1917年)大阪にて創業致しました。
鋼製ドラム用口金の製造を開始致しましたが、昭和9年です。お陰様で来年は、口金生産開始満60年を迎えることができます。この間、ドラム缶内容物の変化及び技術開発に伴うドラム缶製造方法の革新、また口金用素材の転換等幾多の変遷を経験して参りました。このように、長年にわたり「口金」というドラム缶にとって重要な部品を供給させて頂いてきましたことを、我々は誇りに感じております。
今後ますます多様化するお客様からのご要望に対して、これまで蓄積した技術と経験でお応えし、「口金のことは、エノモトに聞け」といわれる口金のスペシャリストになりたいと願っております。
これからも、引き続きご愛顧くださいますようお願い申し上げます。



三恵マツオ工業株式会社

当社は、ドラム缶の各種口金を製造、販売し皆様に御愛用いただいております。埼玉県に立地するメーカーです。
今は遠く昭和7年に当社の前身の会社がドラム缶の口金の製造を開始して実に60年、製品として、フランジ、プラグ、鋼製プラグををはじめステンレス口金、ポリプラグ、キャップシール各銘柄を取り揃えております。
また、専用の塗装ラインにより、ドラム缶の内装にマッチした口金塗装を行い、お客様のニーズに合わせ、小ロットの色替えにも、即応できるよう努めております。
品質の向上、豊富な品揃えを心懸け、お客様第一をモットーとして、努力いたしております。今後ともお引立てご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



丹南工業株式会社

当社は、神奈川県西北箱根山に近い風光明媚な足柄の地にあり、昭和21年模型エンジンの製造会社として出発しました。
昭和35年に垂鉛合金ダイカストの製造分野に進出し、その一環として38年に鋼製ドラム用口金プラグの生産を開始しました。以後39年には圧入形鋼製フランジの製造も行い、鋼製ドラム用口金メーカーとしての態勢も整い今日に至っております。
現在では主力の鋼製ドラム用口金以外に、会社の出発が精密機械加工と云うこともあって、鋼製ドラム用ダイカストプラグの金型、フランジ及び鋼製プラグのプレス金型、ドラム製造ラインの天板へのフランジ取付金型等の設計・製作も行い、お客様の細かいニーズにお応えいたしております。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

- ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105
- O.S.K. 株式会社大阪製罐所
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601
- 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711
- 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371
- 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711
- 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881
- 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680
- 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285
- 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468
- 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511
- 東邦シートフレーム株式会社
TOHO 東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212
- 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591
- 日鐵ドラム株式会社
東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251
- 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101
- 森島金属工業株式会社
MKK 千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551
- 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431
- 株式会社ユニコン
UC 大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.7 (平成6年1月17日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。